

現場から業務改善のアイデアを募り、会社全体のDX意識を醸成。配達状況や製造の状況を社内で共有する仕組みを構築し、顧客満足度向上と品質改善を目指す。

李白酒造有限会社				https://rihaku.co.jp/	
本社所在地	松江市	資本金	322万円	事業概要	清酒・焼酎・味醂の製造、販売
代表者名	田中裕一郎	従業員数	23名		
設立年	1882年	業種	酒造業	地域未来牽引企業	○

背景

- 当社ではかねてよりデジタル技術活用に向けた取り組みに意欲的であり、会計システムや業務システムを導入する等、特定業務のデジタル化を行ってきた。
=Digitization
- 一方、これまでの取り組みは社長中心で企画及び遂行しており、従業員全体の意識醸成に課題感を持っていた。
- また、様々なデータが部署・個人単位で管理・共有されていることにも課題感を抱いていた。
- 今後は次のステップであるDigitalizationに取り組み、デジタル化領域拡大を図っていき、経営課題である顧客満足度向上と品質改善につなげていきたい意向であった。

計画の骨子

従業員による課題抽出

- ▶ 各部署単位で日常業務での困りごとを収集し11件の課題を抽出
- ▶ 配達状況やもろみ状態が共有できていない等、「情報」に関する課題がほとんどであり、各情報をストック情報・フロー情報に分類し課題を整理した

課題改善案とロードマップの策定

- ▶ 既存ストック情報利活用を目指し、クラウドサービス活用を企図
- ▶ クラウドサービスを試行運用し、配達員の位置情報やもろみ状態データを共有するといった実証を通じて情報利活用方針を決定
- ▶ 従業員を巻き込んだルール整備やKPTによる振り返りを行うことで、運用の定着や共有情報の領域拡大を図っていく